





論文審査の結果の要旨

報告番号	博(工)乙第7号		氏名	朱 睿
学位審査委員	主査	山本郁夫	   	
	副査	坂口大作		
	副査	矢澤孝哲		
	副査	喜安千弥		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>朱睿氏は、2013年4月に長崎大学大学院工学研究科博士前期課程総合工学専攻機械工学コースに入学し、2015年3月に修了後、2015年4月に長崎大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程医療科学専攻ハイブリッド医療人養成コースに入学し、2019年3月に修了している。同氏は長年に渡り、医工学に関する研究を行い、近年勤んでいた外科鉗子に関する研究成果を主論文「Research and Development of Testing Devices for Performance-based Evaluation and Comparison of Surgical Forceps (外科鉗子のパフォーマンスに基づいた評価・比較用測定デバイスの研究開発)」として完成させ、参考論文を付して、2021年11月に博士(工学)の学位を申請した。医歯薬学総合研究科博士課程医療科学専攻ハイブリッド医療人養成コースでの博士(医学)の論文テーマは鏡視下結紮器具の研究開発であり、研究テーマが異なる。長崎大学大学院工学研究科教授会は、2022年1月19日の教授会において論文内容等を検討し、本論文を受理して差し支えないものと認め、上記の審査委員を選定した。委員は主査を中心に論文内容について慎重に審議し、公開論文発表会を実施するとともに、最終試験を行い、論文審査および最終試験の結果を2022年3月16日の工学研究科教授会に、本書面をもって報告することとした。</p> <p>学位論文の適合性を審査したところ、学位論文の印刷公表論文3編(うち審査付き論文3編)が学位論文を構成していることが認められ、適合性ありと判断した。</p> <p>以上のように本論文は、既存の外科器械や新規医療器械の臨床における課題を抽出し、その問題解決を図った。医療現場で使う場面が最も多い器械である複数の種類の鉗子や鑷子についてパフォーマンスの測定方法を提案し、評価・比較用測定デバイスの研究開発を行った。これらの研究成果は、外科器械のパフォーマンスに限らず医療スタッフの技術力向上に関しても新規性があり、高い学術的価値を有するものと評価できる。</p> <p>学位審査委員会は、朱睿氏の研究が工学の分野において極めて有益な成果を得るとともに、工学の進歩発展に貢献するところが大きく、博士(工学)の学位に値するものとして合格と判定した。</p>				